



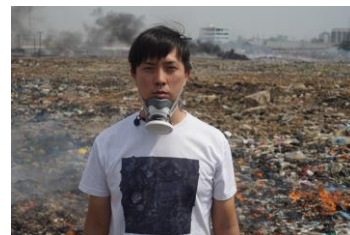
MINATO  
NO  
ART 2022

## 「ミナトノアート2022」 連動企画 「インテリアアート展」 長坂真護作品販売会

- 会期:2022年10月12日(水)~17日(月)
- 会場:8階=催会場 ※最終日は午後5時閉場

そごう横浜店では、10月12日(水)~17日(月)に開催する「インテリアアート展」<8階=催会場>会場にて、横浜元町のMAGO GALLERY YOKOHAMAと提携し、投棄された廃棄物を用いて作品を制作し、ガーナのスラム街撲滅プロジェクトを進めるアーティスト・長坂真護氏の作品展示販売会を開催いたします。

- MAGO GALLERY YOKOHAMA : <https://cinq-arts.com/gallery/>



※本リリースの画像はイメージ、価格は税込です。  
※数量に限りがある商品もございます。売り切れの際はご容赦ください。

### テーマ

#### GHANA

ゴミの山の前にぼつんとたたずむ子どもの写真を経済誌で見たことが、長坂の運命のターニングポイントでした。日本を始めとする先進国が廃棄した電子機器の墓場が発展途上国に多く存在し、長坂が訪れた西アフリカにあるガーナの首都、アクラのアグボグブローシーもその一つでした。スラム街の住人は電子ゴミを燃やすことで得られる金属を売り、一日500円程度の資金を得ているものの、廃棄物に含まれる有害物質に蝕まれ、若くして命を落としている人が多いと言われていました。

2017年6月、初めてその地に赴き、スラム街で目にした東京ドーム30個分を超える果てしなく広がるゴミの荒野に強烈な衝撃を受けた長坂は、アートの中でこの真実を先進国に伝える決意をします。

ゲーム機のコントローラーやテレビのリモコン、パソコンのマウスやキーボードなど現地のゴミをキャンパスに貼り付け、油絵を施す。現地のゴミを利用してアート作品に昇華し、“世界最悪の電子機器の墓場”にリサイクル工場を建設することを目指して、「ガーナ」シリーズの制作をスタートしました。

- The seller is Beautiful even though at slum 660,000円

2020年 サイズ:W30×H30cm  
Oil and E-waste on Canvas

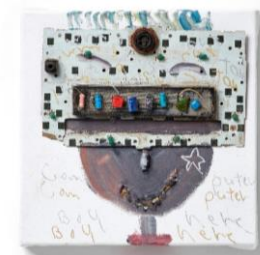
- テニス 1,650,000円

2021年 サイズ:W51×H61cm  
Oil and E-waste on Canvas

- Computer Boy here 327,800円

2020年 サイズ:W20×H20cm  
Oil and E-waste on Canvas

美術家 長坂真護がガーナのスラム街アグボグブローシーに投棄された電子廃棄物を使用して描いた一点ものの作品。



## テーマ

### 月

2015年に起きたパリ同時多発テロの直後、現地に赴いた長坂。その惨劇に強い悲しみと恐怖を覚えると同時に、これまで自身が描いてきた“戦争反対”を表現する作品に落胆し、創作活動ができなくなっていました。

しかし、ある日のパリの夜、ふと見上げた闇夜に浮かぶ満月を見た時、心が穏やかになるのを感じた長坂は「このような瞬間を人々に届けることができれば、一人ひとりの心が和み、それはやがて世界を包み、平和になるのではないか」と考えます。こうして、“世界平和”の願いを込めた「月」シリーズが誕生しました。

描かれている蝶には、“バタフライ・エフェクト”(蝶の羽ばたきは地球の裏側のトルネードを引き起こす可能性があるというカオス理論)という言葉があるように、蝶が夢を思っ活動し、やがて平和という渦ができることを願う、長坂自身の姿を重ねています。月シリーズの作品は、長坂の地元福井の越前和紙に、墨や金銀泥、クリスタルを重ねて描かれています。

#### ●FULL MOON 5,500,000円

2020年 サイズ:W100×H100cm

越前和紙、墨、金粉銀粉、スワロフスキー



## テーマ

### スーパースターズプロジェクト

長坂は、スラム街でアーティストになりたい青少年たちに絵を教え、彼らの作品を先進国で販売し、その売りあげの一部を作家本人に支払う「スーパースターズプロジェクト」を手掛けます。いずれも未来のスーパースターが描く、力強い作品であり、その報酬は、彼らの生活を強く支えています。

#### ●スーパースターズ 110,000円

2021年 Acryl



## 長坂 真護 (ながさか まご)

MAGO CREATION株式会社 代表取締役美術家

MAGO Art & Study Institute Founder

1984年福井生まれ。2017年6月、ガーナのスラム街・アグボグブロシーを訪れ、先進国が捨てた電子機器を燃やすことで生計を立てる人々と出会う。以降、廃棄物で作品を制作し、その売り上げから生まれた資金でこれまでに1,000個以上のガスマスクをガーナに届け、2018年にはスラム街初の私立学校を設立。2019年8月アグボグブロシー5回目の訪問時に53日間滞在、スラム街初の文化施設を設立した。その軌跡をエミー賞受賞監督カーン・コンウィザーが追い、ドキュメンタリー映画“Still A Black Star”を製作。2021年7月、アグボグブロシーの街が消滅したとの連絡を受け、抜本的な問題解決に向け、廃棄物処理のリサイクル工場建設を目指すほか、環境を汚染しない農業などの事業をスラム街の人々とともに展開すべく土地取得を目指す。日々精力的な制作活動を続けている。

